

学会ハイライト

第32回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会を終えて

(平成28年4月23(土), 24(日)・岡山コンベンションセンターにて)

辻 和英

西川原皮膚科院長

第32回日本臨床皮膚科医会総会事務局長

2016年4月23～24日に、第32回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会を、岡山市・岡山コンベンションセンターにおいて、佐藤 淳会頭(佐藤皮膚科)のもとに開催させていただきました(図1)。中国ブロックでの開催は、広島県の1996年第12回大会(故広渡隆治会頭)、同じく広島県の2007年第23回大会(水野勝会頭)に次いで3回目となります。岡山での開催は初めてでしたが、会期中の2日間で、約1,400名の参加者が全国からお集まりいただ

いたお陰で、大盛況のうちに幕を閉じることができました(図2)、会員の先生方、なかでも熊本地震の影響で大変な折に九州方面からご参加いただいた先生方、各講演やシンポジウムの講師や座長の先生方のご尽力に厚く御礼申し上げます。

学会のテーマについて

第32回大会テーマ「Dermatology Tomorrow ; Collaboration」は、世代間(古典から最新のレ



図1 学会運営スタッフ。前列中央は佐藤 淳会頭。筆者は前列、右から4番目。



図2 第32回大会のポスターと、大盛況の会場。

ビューまで)・皮膚科以外の診療科間(同一疾患における異なる専門診療科から見た価値観の共有)・開業医と病院と大学、異業種間(医療以外の分野からのアプローチ)など、既存の枠にとらわ

れずにコラボレートすることで、皮膚科学がますます発展・進化し続けるという思いがこもっております。さらに皮膚科学から他の分野にも情報を発信し、すべての人々がより健康的で明るい生活



図3 アナライザーを配置した、「Derma Live!」。



図4 星野仙一元監督にもご出席いただいた懇親会。

を送れるようになって欲しいとの願いがこのテーマには込められております。

講演内容のご紹介

特別講演では、厚生労働省保険局医療課長 宮寄雅則先生と公益社団法人日本医師会副会長 中川俊男先生に平成28年度診療報酬改定について、ご講演いただきました。皮膚科診療・医療行政については、患者さんのため日本皮膚科学会と日本臨床皮膚科医会など皮膚科に携わる医師が今後も力を合わせていくことが、ますます重要になっていくと実感いたしました。

アナライザーを配置して、「Derma Live!」という臨場感のある参加型のシンポジウムを企画させていただきました。講演の合間に会場とのやり取りと解説をしていただくなど、ご準備いただいた先生方には、多大なお手間をおかけいたしました。聴講された先生方からは、大変わかりやすく理解できたとのこと評価をいただいております(図3)。

「Listen to Neighbors」では、皮膚科以外の診療科・メディカルなどとコラボレーションし、日常診療での皮膚科以外の視点からのご意見をいただきながら皮膚科医の視野を拡大する目的で講演いただきました。

「Tomorrow's Practice」は、明日からの診療に役立つさまざまな情報を集めたセッションで、日常診療でのコツなどを取り上げていただき、すぐに臨床に生かせる興味深い講演でした。

スポンサードセミナー・シンポジウム

スポンサードセミナーやシンポジウムなどは、内容が重ならないよう配慮して、多岐にわたり興味深い内容のご講演をいただきました。漢方・スキンケア・帯状疱疹関連痛(ZAP)については、シンポジウム形式のセッションをお願いしておりました。山口重樹教授(獨協医科大学医学部麻酔科)、渡辺大輔教授(愛知医科大学皮膚科)、松尾光馬先生(中野皮膚科クリニック)には、帯状疱疹後神経痛への移行を防ぐためにも、早期の抗ウイルス剤の投与とトラマドール・アセトアミノフェン配合錠の使用が合理的であるなどのご講演をいただきました。

文化講演には、会頭と同郷の倉敷出身の星野仙一元監督をお招きして、楽天イーグルス優勝に至る感動の秘話をご講話いただき、懇親会にもご出席いただきました(図4)。また、文化講演2では、演者 竹内昌彦先生には、「私の歩んだ道一見えないから見えたものについて」、目が見えないか

らこそできることがあるなど、人としての前向きな生き方について感銘を受ける素晴らしいご講演をいただきました。

医療関係者向け公開講座では、高齢者の皮膚のケアについて、日本を代表する宮地良樹先生と真田弘美先生にご講演いただきました。

初めての試みである日本皮膚科学会とのコラボレーションとして、皮膚科専門医指導医講習会・日本皮膚科学会岡山地方会も、新築完成直後の岡山県医師会館で同時に開催いたしました。

ポスター賞

ポスターセッションでは、岡山地方会とのコラボレーションと岡山大学医学部の学生さんのポスターの発表もあり、大変活発な討論が行われました。また、選考委員の厳選の結果、優秀なポスターとして、2名の先生方がポスター賞を受賞されました。おめでとうございます(図5)。

- 爪乾癬と関節症性乾癬に対する超音波検査の有用性

大阪大学皮膚科 林 美沙先生

- 手指に生じた硬性下疳の1例

東京大学皮膚科 蒲澤美代子先生

おわりに

この度、熊本の震災に遭われた方々には、心からのお見舞いを申し上げます。また、学会直前の震災の影響で、会員の先生方の安否も含めて混乱が生じ、急遽プログラムの変更があったにもかかわらず、多くの先生方に学会を支えていただきました。

さらには、ご参加いただいた会員の方から、義



図5 ポスター賞を授賞した林 美沙先生(左)と蒲澤美代子先生(右)。中央は佐藤 淳会頭。

援金として総額約20万円のご厚情が集まり、そちらにつきましては、九州ブロックを通じて、震災に合われた医療機関に寄付をさせていただき運びとなりました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

本学術大会が、これからの皮膚科の臨床の発展に少しでも寄与し、全国からご参加いただいた会員の先生方にとって、多少なりともお役に立てたのであれば幸いです。今後の皮膚科がますます発展するのを楽しみに思っております。

謝辞

日臨皮中国ブロック役員、準備委員会の諸先生方をはじめとして、事務局担当の方々、素晴らしいプログラムの企画から全国の諸先生方にお声がけをいただくなど、寸暇を惜しまずご尽力いただきました岡山大学・川崎医科大学および同門会の先生方に深謝申し上げます。